

松山赤十字病院の誘致について

問

伊予市の商店街、その他の経済効果を考えるとき、愛媛県市長会会長の今こそ高速度路・JR・伊予鉄道の利便性を強調し、南予一円その他の推薦を取り付け、市長の最大の仕事と位置付け、努力を固るべきだと考える。これこそが政治だと思いが、考えを伺いたい。

答

中村市長

松山赤十字病院の誘致に関しては、移転等の具体的な計画は進んでいないのが現状である。

しかし、病院の移転について動きがあれば、誘致を働き

武智

実 議員



かけたい。

本市は、交通の利便性にすぐれ、また南予の玄関口という特性もある。誘致できれば本市の活性化にとっても大きな効果があると考えており、誘致を目指す際にはお力添えをいただきたい。

永木・野中小学校校舎の利用について

問

廃校にするとき、地区住民に対して通学バス・デイサービス・一部公民館・その他約束をした中で進めてきた経緯があるが、補助申請して進めていくと説明してきたのに、今になって止めるとはどういうことか伺いたい。

答

中村市長

永木・野中小学校の校舎活用は、平成十六年度の統合合意書で、校舎の一階部分は高齢者の福祉施設として活用することを得ている。合



デイサービスに活用されている旧佐礼谷中学校

併後も検討した結果、野中地区は福祉法人が、永木地区は市が施設改修を行うことで計画を進めていた。

本年三月に、施設運営を予定していた社会福祉法人中山梅寿会より、介護保険制度の改正により平成十七年十月から施行された施設の介護報酬の見直しにより、母体の介護福祉施設の運営が非常に厳しくなったので、計画の見直しをしたなどの申し出があった。

野中地区は、プールの上にデイサービスを中心とした施設を法人が建設することで合意を得ている。

永木地区は、デイサービスやショートステイの利用者は非常に少なく、介護保険の施設を設置しても運営が困難であるとの見解に達し、改修計画を見直すことになった。先般、永木地区の四集落に市民福祉部と法人が行って説明を行うと同時に、意見を聞いたところ、計画を白紙に戻すのではなく、保留として再検討してほしいという結果であった。

今後は、地域の組織である永木地区永木小学校校舎活用検討委員会等と協議しながら、計画を見直したい。新たな計画ができるまでは、老人クラブ等地域の皆さんに活用していただけるような方法を協議したい。



活用が検討されている永木小学校校舎